

(様式第9)

鳥大医療 第16-1号  
平成25年10月 2日

厚生労働大臣

殿

鳥取大学医学部附属  
病院長 北野

鳥取大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3の規定に基づき、平成24年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	32人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	324人	70人	375.8人	看護補助者	79人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	10人	7人	12.8人	理学療法士	14人	臨床検査技師	47人
薬剤師	32人	0人	32.0人	作業療法士	7人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	4人	その他	0人
助産師	41人	1人	42.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	632人	12人	641.6人	臨床工学技士	13人	医療社会事業従事者	9人
准看護師	1人	0人	1.0人	栄養士	1人	その他の技術員	18人
歯科衛生士	2人	1人	3.0人	歯科技工士	2人	事務職員	208人
管理栄養士	7人	0人	7.0人	診療放射線技師	36人	その他の職員	26人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	613.6 人	13.5 人	627.1 人
1日当たり平均外来患者数	1312.3 人	67.6 人	1379.9 人
1日当たり平均調剤数			986.4 剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。





(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要 該当ありません。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

## (様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	29人	・膿疱性乾癬	2人
・多発性硬化症	37人	・広範脊柱管狭窄症	7人
・重症筋無力症	68人	・原発性胆汁性肝硬変	43人
・全身性エリテマトーデス	123人	・重症急性膵炎	5人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	26人
・再生不良性貧血	15人	・混合性結合組織病	21人
・サルコイドーシス	81人	・原発性免疫不全症候群	3人
・筋萎縮性側索硬化症	21人	・特発性間質性肺炎	23人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	117人	・網膜色素変性症	11人
・特発性血小板減少性紫斑病	37人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	24人	・肺動脈性肺高血圧症	5人
・潰瘍性大腸炎	58人	・神経線維腫症	19人
・大動脈炎症候群	18人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ピュルガー病	9人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・天疱瘡	11人	・慢性血栓性肺高血圧症	5人
・脊髄小脳変性症	37人	・ライソゾーム病	3人
・クローン病	25人	・副腎白質ジストロフィー	3人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	5人	・脊髄性筋萎縮症	2人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	198人	・球脊髄性筋萎縮症	5人
・アミロイドーシス	9人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	16人
・後縦靭帯骨化症	56人	・肥大型心筋症	3人
・ハンチントン病	2人	・拘束型心筋症	2人
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	19人	・ミトコンドリア病	0人
・ウェゲナー肉芽腫症	12人	・リンパ管筋腫症(LAM)	4人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	66人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	30人	・黄色靭帯骨化症	2人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	56人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・乳がんセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	・
・筋緊張性ジストロフィー症のDNA診断	・
・超音波骨折療法	・
・インプラント義歯	・
・根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年15~20回程度
部 検 の 状 況	部検症例数 32 例 / 部検率 6.50%

## (様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1. 研究費補助金等の実績(平成24年度)

	研究課題	氏名		金額(円)	補助元又委託先
1	Srcを標的分子とした小細胞肺癌の治療を開発するための実験的研究	井岸 正	分子制御内科学	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
2	脳梗塞症罹患後安定期における健康寿命阻害因子の分析と予防法構築のための研究	古和 久典	脳神経内科学	600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
3	ADCC活性制御による胸膜中皮腫の新しい治療法の開発	清水 英治	分子制御内科学	700,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
4	アルツハイマー病における糖タンパクの糖鎖異常の解析	浦上 克哉	生体制御学	1,100,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
5	小児期発症メタボリック症候群における新たな疾患感受性遺伝子の探索	花木 啓一	母性・小児看護学	1,100,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
6	非生毛部に生じた悪性黒色腫に対する表皮基底面の走査型電子顕微鏡学的観察	吉田 雄一	皮膚病態学	600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
7	急性肺障害に対する生体内高エネルギー磷酸化物のホスホエノールピルビン酸の投与効果	大嶋 嘉明	麻酔・集中治療学	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
8	消化器癌患者におけるT細胞機能低下メカニズムの検討とその制御による免疫治療の開発	齊藤 博昭	病態制御外科学	1,600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
9	黄砂曝露による健康影響の評価	大谷 眞二	第一外科診療科群	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
10	血球貪食症を伴う慢性活動性EBV感染症ウサギモデルの病態解析	林 一彦	分子病理学	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
11	軽度パーキンソン徴候から認知症・パーキンソン病への進行に関する縦断的疫学研究	中島 健二	脳神経内科学	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
12	睡眠時無呼吸症候群による時計遺伝子を介した分子生物学的影響に関する研究	鱒岡 直人	病態検査学	1,100,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
13	脳波コヒーレンス解析による急性脳症の早期診断	前垣 義弘	脳神経小児科学	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
14	低真空走査型電子顕微鏡を用いた巣状糸球体硬化症の早期診断	岡田 晋一	周産期・小児外科学	500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
15	インスリン様成長因子-Iの転写因子と結合蛋白の異常による成長ホルモン不応症の解明	神崎 晋	周産期・小児外科学	1,800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
16	認知矯正療法の効果に関する神経機能画像を用いた研究	兼子 幸一	精神行動医学	1,500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
17	多系統萎縮症の早期診断を目指した基礎的および臨床的研究	小川 敏英	画像診断治療学	1,500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
18	Vandetanibによるグリオーマ播種病変制御の試み	渡辺 高志	脳神経外科学	1,800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
19	骨盤内血流と下部尿路機能障害に関する研究	齊藤 源顕	分子薬理学	1,100,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
20	卵巣明細胞腺癌に対するFGFR2を標的とした新規治療法の開発	板持 広明	生殖機能医学	2,400,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
21	癌形質を消失させるマイクロRNA群の薬物応用への試み	三浦 典正	分子薬理学	700,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
22	統合失調症モデルとしてのオリゴデンドロサイト障害マウスの検討	山内 崇平	精神行動医学	1,100,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
23	免疫制御因子を標的とした加齢黄斑変性に対する分子治療法の戦略的開発	池田 欣史	視覚病態学	1,300,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
24	Anti-miRNAによる骨芽細胞分化誘導	岡本 秀治	口腔顎顔面病態外科学	1,500,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金

	研究課題	氏名		金額(円)	補助元又委託先
25	肺癌に対する抗EGFR抗体の感受性因子の探索と新しい併用療法の開発	高田 美也子	分子制御内科学	1,800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
26	二光子励起法を応用したロボット支援前立腺全摘術中ナビゲーションシステムの開発	日向 信之	腎泌尿器学	1,600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
27	転写因子Nrf2活性化による急性肺傷害の保護に関する研究	持田 晋輔	麻酔診療科群	1,100,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
28	閉塞性肺疾患におけるビタミンの役割	山崎 章	第三内科診療科群	2,900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
29	変異型アミロイドβ蓄積機構の解明	和田 健二	神経内科	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
30	神経疾患合併RBDの意義と早期介入に対する検討	野村 哲志	神経内科	1,400,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
31	広く見え、指のような触覚をもつ内視鏡の開発	植木 賢	次世代高度医療 推進センター	1,200,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
32	TLR経路による角膜内皮機能抑制機構の解明	石倉 涼子	眼科	1,700,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
33	内リンパ嚢におけるバソプレッシン-アクアポリン2水代謝機構に関する総合的研究	田口 大蔵	頭頸部診療科群	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
34	遺伝子多型に基づく薬物輸送蛋白OATP2B1活性の個人差および臨床的意義の解明	高根 浩	薬剤部	900,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
35	地域疫学調査による大脳白質病変の病態解明と予防の確立に関する研究	山脇 美香	Jハビリテーション部	1,100,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
36	レビー小体型認知症の診断バイオマーカーの探索	中下 聡子	Jハビリテーション部	600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
37	角膜内皮は抗原提示細胞として免疫応答を制御するか？	小松 直樹	眼科	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
38	低酸素応答への介入による非脱分極性筋弛緩薬の肺保護効果についての研究	船木 一美	麻酔診療科群	1,600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
39	発達障害児における行動障害に関する有効なコンサルテーションシステムの開発	井上 雅彦	臨床心理学	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
40	皮下脂肪由来再生細胞の血管再生治療臨床応用へ向けた基本的情報の検討	山本 康孝	再生医療学	1,000,000	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金
41	生理学的アプローチによるヒト全能性幹細胞由来ペースメーカー細胞作製と再生医療応用	久留 一郎	再生医療学	1,400,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
42	大規模スクリーニングシステムによる肝再生医療を実現化する低分子化合物の同定	汐田 剛史	遺伝子医療学	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
43	軽度認知障害のアルツハイマー病への移行を予測する神経心理学検査の検討	竹田 伸也	臨床心理学	600,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
44	ロールレタリングによる看護学生の共感性の育成に関する研究	金子 周平	臨床心理学	800,000	補委 日本学術振興会 科学研究費助成事業 助成金
45	呼吸窮迫症候群の新しい治療法の研究-サリドマイドの肺血管新生戦略の検討	船越 多恵	麻酔・集中治療学	828,400	補委 日本学術振興会 科学研究費補助金

計45

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第11)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
European Heart Journal 2012年6月	Ca <sup>2+</sup> entry mode of Na <sup>+</sup> /Ca <sup>2+</sup> exchanger as a new therapeutic target for heart failure with preserved ejection fraction.	山本一博 他	第一内科
European Heart Journal 2012年7月	Diastolic stiffness as assessed by diastolic wall strain is associated with adverse remodeling and poor outcomes in heart failure with preserved ejection fraction.	山本一博 他	第一内科
Journal of Hypertension 2012年9月	L-carnitine prevents the development of ventricular fibrosis and heart failure with preserved ejection fraction in hypertensive heart disease.	山本一博 他	第一内科
Cardiovascular Diabetology 2013年1月	20/(Fasting C-Peptide x Fasting Plasma Glucose) is a simple and effective index of insulin resistance in patients with type 2 diabetes mellitus: a preliminary report.	大倉毅 他	第一内科
Clinical Endocrinology (in press)	Autoantibody against WD repeat domain 1 is a novel serological biomarker for screening of thyroid neoplasm.	伊澤正一郎 他	第一内科
Br J Radiol 2012; 85: 745-752	Assessment of ablative margin by MRI with ferucarbotran in radiofrequency ablation for liver cancer: comparison with enhanced CT.	Tokunaga S, 他	第二内科
Eur J Radiol 2012; 81:1400-1404	Assessment of ablative margin after radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma; comparison between magnetic resonance imaging with ferucarbotrana nd enhanced CT with iodized iol deposition.	Koda M, 他	第二内科
Hepatology 2012; doi: 10.1002/hep.25860	Right diaphragmatic defect in hepatic hydrothorax exposed by contrast-enhanced ultrasonography after radiofrequency ablation.	Matono T, 他	第二内科
Hepatology 2012; 55: 649-650	Contrast-enhanced sonography with perflubutane revealing active bleeding as a complication of radiofrequency ablation.	Matono T, 他	第二内科
Eur J Radiol 2012; 81: 2730-2736	Assessment of ablative margin by unenhanced magnetic resonance imaging after radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma.	Koda M, 他	第二内科
J Gastroenterol Hepatol 2012; 27: 1752-1758	Fhit, E-cadherin, p53, and activation-induced cytidine deaminase expression in endoscopically resected early stage esophageal squamous neoplasia.	Hayashi A, 他	第二内科
Eur J Radiol 2012; 81: 1400-1404	Assessment of ablative margin after radiofrequency ablation for hepatocellular carcinoma; comparison between magnetic resonance imaging with ferucarbotrana nd enhanced CT with iodized iol deposition	Koda M, 他	第二内科
症例から学ぶ周産期診療ワークブック.日本周産期・新生児医学会教育・研修委員会,メジカルビュー社,東京 204-209 2012.7.20	4.母子感染症 6.HBV,HCV	長田郁夫	小児科
疾患・症状別今日の治療と看護,改訂第3版総編集永井良三/大田 健,南江堂,東京 1327-1328 2013.3.30	先天性甲状腺機能低下症(クレチン症)	神崎 晋	小児科
下垂体疾患診療マニュアル,平田結喜緒山田正三成瀬光栄編集,診断と治療社,東京 131-132 2012.4	4.IGF-I異常症とIGF-I受容体異常症	藤本正伸	小児科
ワンランク上の小児臨床検査,大藪恵一編東京,総合医学社 435-441 2012	肝障害	長田郁夫	小児科
Hepatology Res 42(7) 648-57 2012	Risk factors for mother-to-child transmission of hepatitis C virus: Maternal high viral load and fetal exposure in the birth canal.	Murakami J	小児科
Pediatr Int. 54(5) 720-4 2012 Oct	Castleman disease in a child with short stature.	Hanada T	小児科
Endocr J 60(1) 107-112 2013 January	Leprechaunism (Donohue syndrome): A case bearing novel compound heterozygous mutations in the insulin receptor gene.	Kawashima Y	小児科
臨床血液 53(4) 460-464 2012.4	KIT変異を伴う治療抵抗性AML1-ETO陽性AMLに対するチロシンキナーゼ阻害剤の使用経験	上山潤一	小児科
小児科臨床 65(7) 1713-1719 2012.7	慢性移植片対宿主病による角膜穿孔のため角膜移植を行った若年性骨髄単核性白血病の1例	上山潤一	小児科
日本小児血液学会雑誌 49(4) 499-506 2012	組換え型トロンボモジュリン製剤を使用した小児血液悪性疾患の6例	奥野啓介	小児科
鳥取医誌 40(2) 53-56 2012	低身長の見方	神崎 晋	小児科
小児科診療 75(3) 399-404 2012	特集 日常診療に必ず役立つ小児内分泌学 III.必ず遭遇する内分泌疾患を疑わせる訴え:絶対に確認すべきファーストライン 肥満	花木啓一	小児科
小児科診療 75(増刊) 281-285 2012.04	【小児の診療手技100】生検 肝生検	村上 潤	小児科
ペリネイタルケア 406号 51-53 2012	特集12 産後1カ月検診での会話例とアクセスポイントを学ぶ!お母さんと赤ちゃんのトラブル&お悩み解決実践集	長田郁夫	小児科
小児内科 44(4) 517-522 2012	水・電解質代謝と内分泌	岡田晋一	小児科
小児科臨床 65(5) 977-983 2012.5.	SGAで出生した低身長からみつける遺伝子異常-最近までのIGF1受容体遺伝子異常症の進歩-	鞆嶋有紀	小児科
小児内科 44(6) 847-851 2012.06	乳幼児肥満の問題とその管理	花木啓一	小児科
ネオネイタルケア2013年春季増刊 90-94 2013.3.25	新生児輸液管理なるほどQ&A 7.なぜ、身体にはマグネシウムが必要?	松下博亮	小児科
ネオネイタルケア2013年春季増刊 124-129 2013.3.25	新生児輸液管理なるほどQ&A 13.なぜ、身体にはビタミンが必要?	松下博亮	小児科
International Surgery, 2012; 97: 275-279,	Prognosis of patients with gastric cancer who underwent proximal gastrectomy.	Ikeguchi M, 他	第一外科
J Gastrointest Cancer, 2012; 44: 199-202,	Treatment of patients with Stage IV gastric cancer.	Ikeguchi M, 他	第一外科
Molecular and Clinical Oncology 2013; 1: 253-256,	Usefulness of palliative prognostic score in the treatment of patients with non-resectable gastric cancer.	Ikeguchi M, 他	第一外科
米子医誌, 2012; 63, 75-81,	体外式超音波検査における胆嚢壁構造と癌の壁深達度診断	服部博明, 他	第一外科
J Surg Res, 2012; 178: 685-691,	Prevalence and clinical relevance of Th17 cells in patients with gastric cancer.	Yamada Y, 他	第一外科
Yonago Acta medica 2012, 55: 57-61,	Clinicopathological characteristics and prognosis of gastric cancer in young patients.	Saito H, 他	第一外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Surg Oncol, 2013; 107: 517-22.	Increased PD-1 expression on CD4+ and CD8+ T cells is involved in immune evasion in gastric cancer.	Saito H, 他	第一外科
B) Gastric Cancer, 2012: [Epub ahead of print], DOI 10.1007/s10120-012-0210-1.	Increased apoptosis and elevated Fas expression in circulating natural killer cells in gastric cancer patients.	Saito H, 他	第一外科
手術 2013; 67: 517-520.	総胆管十二指腸瘻を形成したBouveret症候群の1手術例	徳安成郎, 他	第一外科
Yonago Acta medica 55 49-56 2012.9	Surgical Treatment for Severe Heart Failure: Recent Progress in Treatment Strategy and its Present Status in Japan	Motonobu Nishimura	心臓血管外科
鳥取医学雑誌 第40巻第3号 151-15 2012.9	大動脈瘤ステントグラフト治療においてアクセスルートトラブルを経験した2症例	岸本 諭 他	心臓血管外科
日本心臓血管外科学会雑誌 41巻6号 323-326 2012.11	胸部解離性大動脈瘤と両側総腸骨動脈閉塞の合併に対しステントグラフトを用いたハイブリッド治療を施行した1治療例	岸本祐一郎 他	心臓血管外科
日本呼吸器外科学会雑誌 2012; 26:704-12	呼吸器外科におけるロボット手術の初期導入結果の検討	中村廣繁	胸部外科
日本臨床細胞学会雑誌 2012; 51:452-3	すりガラス陰影を呈する未確診小型肺腫瘍性病変の抽出材料での穿刺吸引細胞診検査の有用性	荒木邦夫	胸部外科
Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2012; 60:465-7.	Squamous cell carcinoma of the lung invaded to esophagus: a case report of successful surgical treatment after preoperative transesophageal echographic evaluation.	Haruki T	胸部外科
Oncol Rep. 2012; 28:915-22.	Multiparameter analysis using cell cycle biomarkers for small-size lung adenocarcinoma: prognostic implications.	Haruki T	胸部外科
Asian J Endoscopic Surg. 2012; 5:93-5.	A case of thoracoscopic right upper lobectomy for lung cancer with tracheal bronchus and a pulmonary vein variation.	Yurugi Y	胸部外科
Lung Cancer. 2012; 77:16-23	Dihydropyrimidine dehydrogenase (DPD) expression is negatively regulated by certain microRNAs in human lung tissues.	Hirota T	胸部外科
Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2013;61:127-32	Robot-assisted thoracoscopic surgery: current status and prospects.	Nakamura H	胸部外科
J Bone Miner Metab 2012年4月	Three years of treatment with minodronate in patients with postmenopausal osteoporosis.	萩野 浩	整形外科
Osteoporosis Int 2012年6月	Efficacy and safety of monthly oral minodronate in patients with involutional osteoporosis	萩野 浩	整形外科
J Clin Endocrinol Metab 2012年9月	Randomized teriparatide [Human Parathyroid Hormone (PTH) 1-34] once-weekly efficacy research (TOWER) trial for examining the reduction in new vertebral fractures in subjects with primary osteoporosis and high fracture risk.	萩野 浩	整形外科
Yonago Acta Medica 2013年3月	< <a href="http://lib.med.tottori-u.ac.jp/yam/yam56-1/56_013-019.pdf">http://lib.med.tottori-u.ac.jp/yam/yam56-1/56_013-019.pdf</a> > Etanercept Promotes Bone Formation via Suppression of Dickkopf-1 Expression in Rats with Collagen-Induced Arthritis	萩野 浩	整形外科
Yonago Acta Medica 2013年3月	< <a href="http://lib.med.tottori-u.ac.jp/yam/yam56-1/56_021-027.pdf">http://lib.med.tottori-u.ac.jp/yam/yam56-1/56_021-027.pdf</a> > Morphological and Volumetric Analysis of the Development of Atlantoaxial Vertical Subluxation in Rheumatoid Arthritis 403-kB PDF	萩野 浩	整形外科
Int Orthop 2012年6月	Clinical features of spinal infection in individuals older than eighty years.	永島英樹	整形外科
Arch Orthop Trauma Surg 2012年5月	Surgical outcomes and prognostic factors of cervical spondylotic myelopathy in diabetic patients.	永島英樹	整形外科
Eur J Orthop Surg Traumatol 2012年11月	Prompt surgical management for spinal fracture in the elderly aged over 90 years with diffuse idiopathic skeletal hyperostosis to extend their healthy lifespan.	永島英樹	整形外科
J Med Case Rep 2012年10月	Angiosarcoma of the proximal humerus: a case report and review of the literature.	永島英樹	整形外科
Arch Orthop Trauma Surg 2012年4月	Fall incidence and risk factors in patients after total knee arthroplasty.:555-563.	萩野 浩	リハビリテーション部
Yonago Acta Medica 2012年6月	Fragility fracture prevention. review from a Japanese perspective.:21-28.	萩野 浩	リハビリテーション部
Eur J Dermatol 22(6) :817-818, 2012	Necrotizing fasciitis of the breast and axillary regions.	Adachi K.	皮膚科
Eur J Dermatol 22(5): 704-706, 2012	Dermoscopic features of reticulated acanthoma(superficial epithelioma)with sebaceous differentiation.	Ito T.	皮膚科
YonagoActa Media 55(4):81-82, 2012	Wart with depigmented halo and generalized vitiligo.	Ito T.	皮膚科
Eur J Dermatol 22(6) :807-808, 2012	Multiple congenital comedones,hearing impairment and intellectual disability:a new syndromic association?	Ito T.	皮膚科
Acta Derm Venereol Epub ahead of print	Subcutaneous benign fibrous histiocytoma showing nerve involvement on the eyebrow region.	Ito T.	皮膚科
Acta Derm Venereol Epub ahead of print	Solitary nodule on the nose: A Quize.	Ito T.	皮膚科
Hum Pathol 43(12): 2282-2291, 2012	Assosiation of Merkel cell polyomavirus infection with clinicopathological differences in merkel cell carcinoma.	Higaki-Mori.	皮膚科
Acta Derm Venereol 92(6): 603-604, 2012	Aquired agminated melanocytic naevi:Report of two cases and review of the literatire.	Shimasaki Y.	皮膚科
Eur Acad Dermatol Venereol Epub ahead of print	Clinicopathological study of invasive extramammary Paget's disease: subgroup comparison according to invasion depth.	Shiomi T.	皮膚科
J Dermatol 39(12): 1055-1057	Epidermal nevus syndrome with cutaneous mastocytosis.	Tsuzumi R.	皮膚科
J Dermatol Sci 67(2): 155-158	Serum biomarker in neurofibromatosis type 1.	Yoshida Y.	皮膚科
Urol Oncol. 2012 May 14. [Epub ahead of print]	Fas expression in nephrectomized, non-cancerous specimens predicts post-nephrectomy chronic kidney disease progression in patients with renal and upper urinary tract malignancies.	Sejima T.	泌尿器科
Andrologia. 2012 May 16. doi: 10.1111/j.1439-0272.2012.01306.x. [Epub ahead of print]	The (TAAAA)(n) polymorphism of sex hormone-binding globulin gene is not associated with testicular maldescent.	Mamoulakis C. 他	泌尿器科
Andrologia. 2012 Dec;44(6):428-32.	Dramatic reduction in sperm parameters following bariatric surgery: report of two cases.	Lazaros L. 他	泌尿器科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Life Sci. 2012 May 15;90(17-18):649-56. Epub 2012 Mar 28.	The role of K(ATP) channels on ischemia-reperfusion injury in the rat testis.	Tsounapi P.	泌尿器科
Asian J Androl. 2012 Sep;14(5):778-83.	Phosphatidylethanolamine N-methyltransferase and choline dehydrogenase gene polymorphisms are associated with human sperm concentration.	Lazaros L. 他	泌尿器科
Urology. 2012 May;79(5):1186.e9-1186.e14. Epub 2012 Feb 25.	Hydroxyfasudil ameliorates bladder dysfunction in male spontaneously hypertensive rats.	Inoue S. 他	泌尿器科
Central European Journal of Urology. 65(2):62-66	Serum C-reactive protein level is a significant prognostic indicator in patients with advanced urothelial cancer treated with gemcitabine-cisplatin or carboplatin.	Morizane S.	泌尿器科
Anat Cell Biol. 2012 Jun;45(2):79-85. Epub 2012 Jun 30.	Reappraisal of intergender differences in the urethral striated sphincter explains why a completely circular arrangement is difficult in females: a histological study using human fetuses.	Masumoto H. 他	泌尿器科
Eur J Pharmacol. 2012 Sep 15;691(1-3):182-9. Epub 2012 Jul 20.	Fasudil improves the endothelial dysfunction in the aorta of spontaneously hypertensive rats.	Tsounapi P.	泌尿器科
Urology. 2012 Dec;80(6):1391.e9-1391.e13.	Inhibitory effect of somatostatin receptor subtype-4 agonist NNC 26-9100 on micturition reflex in rats.	Honda M.	泌尿器科
J Endourol, Pt B: Videourology (accepted)	Improving time to continence after RALP: augmentation of the total anatomic reconstruction technique by adding dynamic detrusor cuff trigonoplasty and supra pubic tube placement.	Tewari A. 他	泌尿器科
Hum Reprod. 2012 Sep 20. [Epub ahead of print]	Serum quality is influenced by androgen receptor and aromatase gene synergism.	Lazaros L. 他	泌尿器科
Int J Urol. 2012 Sep 25. [Epub ahead of print]	Oncological and functional outcomes after radical nephrectomy for renal cell carcinoma: A comprehensive analysis of prognostic factors.	Sejima T.	泌尿器科
Int J Urol. 2012 Nov 26. [Epub ahead of print]	Progress in pelvic anatomy from the viewpoint of radical prostatectomy.	Hinata N.	泌尿器科
Int Urol Nephrol. 2012 Dec 11. [Epub ahead of print]	Preoperative prognostic factors after radical nephroureterectomy in patients with upper urinary tract urothelial carcinoma.	Morizane S.	泌尿器科
NeuroUrol Urodyn. 2012 Nov 20. doi: 10.1002/nau.22951. [Epub ahead of print]	Supraspinal and spinal effects of L-trans-PDC, an inhibitor of glutamate transporter, on the micturition reflex in rats.	Honda M.	泌尿器科
Int J Urol. 2012 Nov 6. [Epub ahead of print]20(1):94-9, 2013	Botulinum toxin type A injection for neurogenic detrusor overactivity: Clinical outcome in Japanese patients.	Hikita K.	泌尿器科
Andrologia. 2012 Nov 1. doi: 10.1111/and.12031. [Epub ahead of print]	Screening for Y chromosome microdeletions in childhood: lack of evidence for a direct association with testicular maldescent.	Mamoulakis C. 他	泌尿器科
Andrologia. 2012 Sep 26. doi: 10.1111/and.12021. [Epub ahead of print]	Synergistic effect of follicle-stimulating hormone receptor and androgen receptor gene variants on semen quality.	Lazaros L. 他	泌尿器科
Mol Cell Biochem. 2012 Oct;369(1-2):195-204. doi: 10.1007/s11010-012-1382-z. Epub 2012 Jul 5.	Antioxidant treatment with edaravone or taurine ameliorates diabetes-induced testicular dysfunction in the rat.	Tsounapi P.	泌尿器科
J Endourol. 2012 Dec;26(12):1546-52.	Improving time to continence after robot-assisted laparoscopic prostatectomy: augmentation of the total anatomic reconstruction technique by adding dynamic detrusor cuff trigonoplasty and suprapubic tube placement.	Tewari A. 他	泌尿器科
Int J Urol. 2013 Feb 5. doi: 10.1111/iju.12101. [Epub ahead of print]	Dry box training with three-dimensional vision for the assistant surgeon in robot-assisted urological surgery.	Hinata N.	泌尿器科
Pediat Therapeut. 2013 [Epub ahead of print]	Intravesical oxybutynin for neurogenic bladder in children.	Inoue S. 他	泌尿器科
西日本泌尿器科 PP.370-375 2012年7月	塩酸プロピペリン低用量開始例における有用性の検討	引田克弥	泌尿器科
Neuroradiology 54:427-434, 2012	Changes in susceptibility signs on serial T2-weighted single-shot echo-planar gradient-echo images in acute embolic infarction: comparison with recanalization status on 3D time-of-flight magnetic resonance angiography.	Shinohara Y, et al.	放射線科
Cardiovasc Intervent Radiol 35:1188-1194,2012	Development of a new hanging-type esophageal stent for preventing migration: a preliminary study in an animal model of esophagotracheal fistula.	Endo M, et al.	放射線科
Neuroradiology 54:947-955,2012	Significance of apparent diffusion coefficient measurement for the differential diagnosis of multiple system atrophy, progressive supranuclear palsy, and Parkinson's disease: evaluation by 3.0-T MR imaging.	Tsukamoto K, et al.	放射線科
Magn Reson Med Sci 11:299-302,2012	Hypertrophic olivary degeneration after gamma-knife radiosurgery for pontine metastasis.	Shinohara Y, et al.	放射線科
Cardiovasc Intervent Radiol 35:1539-1541,2012	Successful removal of a trapped biliary metallic stent delivery catheter using the percutaneous approach.	Sugiura K, et al.	放射線科
J Vasc Inter Radiol 24:422-431,2013	Transcatheter arterial embolization of acute arterial bleeding in the upper and lower gastrointestinal tract with N-Butyl-2-Cyanoacrylate.	Yata S, et al.	放射線科
Yonago Acta medica 56:7-12,2013	Radiation-induced microbleeds after cranial irradiation: evaluation by phase-sensitive magnetic resonance imaging with 3.0tesla	Tanino T, et al.	放射線科
日本口腔外科学会雑誌 2012.5	IgG4関連疾患との鑑別を要した口底および舌下腺reactive lymphoid hyperplasiaの1例	藤井信行	歯科口腔外科
J Oral Pathol Med 2012.7	Cancer-associated fibroblasts and CD163-positive macrophages in oral clinicopathological and prognostic significance	Nobuyuki Fujii	歯科口腔外科
鳥取県歯科医学雑誌 2012.6	開咬を伴う重度な骨格性下顎前突症に対し下顎同時移動術をおこなった一例	雨河茂樹	歯科口腔外科
鳥取県歯科医学雑誌 2012.6	顔面皮膚に発生する瘻孔について—診断と治療—	岡本充浩	歯科口腔外科
癌と化学療法 2012.7	低用量S-1単独療法が奏功した超高齢者の進展口腔癌の3例	田村隆行	歯科口腔外科
Plos One 2012.8	Involvement of microRNAs in regulation of osteoblastic differentiation in mouse induced pluripotentstem cells	Okamoto H	歯科口腔外科
Yonago Acta medica 2013.3	Lymphatic Vessel Density and Vascular Endothelial Growth Factor Expression in Squamous Cell Carcinomas of Lip and Oral Cavity:A Clinicopathological Analysis with Immunohistochemistry Using Antibodies to D2-40,VEGF-C,and VEGF-D	Soh Watanabe	歯科口腔外科
日本口腔外科学会雑誌 2013.3	Sakoda Complexにみられた正中唇顎口蓋裂の1例	土井理恵子	歯科口腔外科
Sleep Med. 2013 Feb;14(2):131-5.	Clinical significance of REM sleep behavior disorder in Parkinson's disease.	Nomura T.他	神経内科
Geriatric Neurosurgery 24:51-56, 2012	当院における75歳以上の高齢者くも膜下出血の治療成績 —clipping vs coiling—.	坂本 誠	脳神経外科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Spine Res 3:1073-1078, 2012	脳室-空洞シャントを行った脊髄空洞症の経験.	赤塚啓一	脳神経外科
日本内分泌学会雑誌88 suppl. Aug 44-46, 2012	PRL産生Macroadenomaに対するカベルゴリン治療-その効果判定と3TMRi画像所見-	黒崎雅道	脳神経外科
PEPARS No.16:82-89, 2012	「非骨皮弁をきれいに仕上げる」	中山敏 他	形成外科
Eur J Dermatol 2012 Nov-Dec;22(6):817-8	「Necrotizing fasciitis of the breast and axillary regions.」	Nakayama B, 他	形成外科
科学工業 Vol.64, No.1(2013)	「まぶたの動きや表情運動を簡単に解析できる装置の開発」	中山敏	形成外科
Biochem Biophys Res Commun. 2013 Apr 26;434(1):131-36	AMP deaminase 3 plays a critical role in remote reperfusion lung injury.	Ogino K, 他	卒後臨床研修センター
Horm Metab Res. 2013 Jan;45(1):69-73	A vasodilating $\beta$ 1 blocker celiprolol inhibits muscular release of uric acid precursor in patients with essential hypertension.	Ogino K, 他	卒後臨床研修センター
Clin Exp Hypertens. 2012;34(7):470-3	Effects of cilnidipine on serum uric acid level and urinary nitrogen monoxide excretion in patients with hypertension.	Ogino K, 他	卒後臨床研修センター
Oncol Rep. 2012 Sep;28(3):848-5	Rapamycin induces p53-independent apoptosis through the mitochondrial pathway in non-small cell lung cancer cells.	Nakamoto M, 他	卒後臨床研修センター
Cancer Sci. 2012 Aug;103(8):1405-13	Diagnostic and prognostic impact of serum-soluble UL16-binding protein 2 in lung cancer patients.	Nakamoto M, 他	卒後臨床研修センター
Intervirolgy. 2013;56(2):114-21	EBNA-2 -deleted Epstein-Barr virus from P3HR-1 can infect rabbits with lower efficiency than prototype Epstein-Barr virus from B95-8.	Nagata K, 他	卒後臨床研修センター
Hum Pathol. 2012 Dec;43(12):2282-91	Association of Merkel cell polyomavirus infection with clinicopathological differences in Merkel cell carcinoma.	Nagata K, 他	卒後臨床研修センター
Journal of Vaccines & Vaccination (J Vaccines Vaccin) 2012 doi: 10.4172/2157-7560.1000150 (open access publication)	Synthetic Peptides of Epstein-Barr Virus-major Envelope Glycoprotein-350/220 do not Prevent Infection in a Rabbit Epstein-Barr Virus Infection Model	Nagata K, 他	卒後臨床研修センター
Ophthalmology 119:1111-1119, 2012	Assessment of real-time polymerase chain reaction detection of Acanthamoeba and prognosis determinants of acanthamoeba keratitis.	Ikeda Y, et al	眼科
Invest Ophthalmol Vis Sci 53:3424-3430, 2012	Associations of IL-23 with polypoidal choroidal vasculopathy.	Miyazaki D, et al	眼科
Asia-Pacific Journal of Ophthalmology 1:283-286, 2012.	A Japanese survey of perioperative antibiotic prophylaxis in cataract surgery.	Inoue Y, et al	眼科
眼科臨床紀要 5:59-63, 2012	ハンガーフックによる外傷性上斜筋損傷の1例.	石倉涼子ほか	眼科
あたらしい眼科 29:99-102, 2012	白内障手術のモキシフロキサシン結膜下注射の安全性と有効性-モキシフロキサシン結膜下注射後の前房内薬剤濃度の変化.	井上幸次ほか	眼科
あたらしい眼科 29:397-402, 2012	わが国のアカントアメーバ角膜炎関連分離株の分子疫学多施設調査(中間報告)	井上幸次ほか	眼科
臨眼 66:453-457, 2012	Coats病精査を契機に眼底所見から先天性上斜筋麻痺を診断した1例.	馬場高志ほか	眼科
臨眼 66:437-441, 2012	水晶体嚢内前嚢内フラッシュ法(BGフラッシュ)-モキシフロキサシン前房内注入変法.	井上幸次ほか	眼科
臨眼 66:491-494, 2012	眼内レンズ挿入眼での光干渉眼軸測定(OA-1000TM)の精度の検討.	井上幸次ほか	眼科
あたらしい眼科 29:669-678, 2012	細菌性結膜炎および細菌性角膜炎に対する1.5%レボフロキサシン点眼液(DE-109点眼液)の第Ⅲ相臨床試験.	井上幸次ほか	眼科
日コレ誌 54:31-40, 2012	コンタクトレンズケース汚染の現状.	井上幸次ほか	眼科
臨眼 66:1069-1072, 2012	経口抗癌剤エルロチニブによる薬剤性ぶどう膜炎が疑われた1例.	川口亜佐子ほか	眼科
あたらしい眼科 29:1681-1688, 2012	眼感染症由来Staphylococcus epidermidisが形成したIn vitro/バイオフィルムに対するトスフロキサシン点眼液の殺菌効果.	井上幸次ほか	眼科
IOL&RS 26:436-441, 2012	白内障手術期の抗菌薬投与方法の現状-鳥取, 島根.	井上幸次ほか	眼科
Neuroscience Research 2012	Valproic acid improves the tolerance for the stress in learned helplessness rats.	Kaneko K.	精神科
Psychiatry Research 2012	Fish consumption is positively associated with social functioning: a cross-sectional study in male Japanese workers.	Yamada T.	精神科
Journal of Psychiatric Research 2012	The relationship between the prefrontal activation during a verbal fluency task and stress-coping style in major depressive disorder: A near-infrared spectroscopy study.	Pu S.	精神科
Psychiatry Research 2012	Reduced prefrontal cortex activation during the working memory task associated with poor social functioning in late-onset depression: Multi-channel near-infrared spectroscopy study.	Pu S.	精神科
Brain Research 2012	Regulation of ERK1/2 mitogen-activated protein kinase by NMDA-receptor-induced seizure activity in cortical slices.	Kaneko K.	精神科
Brain, Behavior, and Immunity 2012	The inflammasome: Pathways linking psychological stress, depression, and systemic illnesses	Masaaki Iwata	精神科
Brain Dev.2013 Apr;35(4):317-22.	The chaperone activity and toxicity of ambroxol on Gaucher cells and normal mice.	Ohno K, 他	脳神経小児科
Mol Ther. 2013 Mar;21(3):526-32.	A bicyclic 1-deoxygalactonojirimycin derivative as a novel pharmacological chaperone for GM1 gangliosidosis.	Ohno K, 他	脳神経小児科
Cortex. 2012 May;48(5):563-83.	Distinction between the literal and intended meanings of sentences: a functional magnetic resonance imaging study of metaphor and sarcasm.	Ohno K, 他	脳神経小児科
Neuropediatrics. 2013 Feb 1 in press.	Association of Acute Cerebellar Ataxia and Human Papilloma Virus Vaccination: A Case Report.	Maegaki Y 他	脳神経小児科
Brain Dev. 2012 Nov;34(10):834-9.	Quantitative computed tomography for enzyme replacement therapy in Pompe disease.	Narita A 他	脳神経小児科
Ann Neurol. 2013 Jan;73(1):48-57.	Phenotypic spectrum of COL4A1 mutations: porencephaly to schizencephaly.	Kondo N 他	脳神経小児科

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
我が国における非B非C肝硬変の実態調査 2011 53-57 2012.3	山陰地方における非B非C肝硬変の実態	大山賢治 他	がんセンター
臨床婦人科産科 66巻4号388-392 2012.4	卵巣癌に対する分子標的薬の現状	佐藤慎也 他	がんセンター
臨床腫瘍プラクティス 8巻2号166-169 2012.5	子宮がんに対する術前補助化学療法の意味は?	島田宗昭 他	がんセンター
産婦人科の実際 61巻5号745-749 2012.5	Palliative chemotherapy(緩和的化学療法)の実践	島田宗昭 他	がんセンター
産科と婦人科 79巻6号723-727 2012.6	分子標的治療薬の現状と今後の課題	紀川純三 他	がんセンター
日本臨床 70巻4号213-216 2012.6	婦人科がん-最新の研究動向- 子宮頸がん 子宮頸癌の治療 外科治療 子宮頸癌手術と機能温存	出浦伊万里 他	がんセンター
日本臨床 70巻4号622-627 2012.6	婦人科がん-最新の研究動向- 卵巣がん 卵巣癌の治療 化学療法 分子標的薬	板持広明 他	がんセンター
産科と婦人科 79巻10号1273-78 2012.10	【卵巣明細胞腺癌と子宮内腹症-分子生物学的アプローチと治療戦略の展望】卵巣明細胞腺癌における薬剤耐性機構	大石 徹郎 他	がんセンター
肝臓 53巻11号748-753 2012.11	健康食品「にんにく卵黄」によると思われる薬物性肝障害の1例	岡本 欣也 他	がんセンター
Cancer Chemother Pharmacol. 70. 1 33-38 2012.7	Area under the curve calculation of nedaplatin dose used in combination chemotherapy with irinotecan in a phase I study of gynecologic malignancies.	Shimada M, 他	がんセンター
Int J Gynecol Cancer. 22.6 922-929 2012.7	Activation of the mitogen-activated protein kinase kinase/extracellular signal-regulated kinase pathway overcomes cisplatin resistance in ovarian carcinoma cells.	Nonaka M, 他	がんセンター
Mol Cell Biol. 32.16 3242-3252 2012.8	Regulation of cell migration by sphingomyelin synthases: sphingomyelin in lipid rafts decreases responsiveness to signaling by the CXCL12/CXCR4 pathway.	Asano S, 他	がんセンター
Int J Clin Oncol. 17.5 423 2012.8	Molecular-targeted therapies for ovarian cancer.	Kigawa J.	がんセンター
Int J Clin Oncol. 17.5 430-40 2012.8	Clinical trials and future potential of targeted therapy for ovarian cancer.	Itamochi H, 他	がんセンター
Exp Ther Med. 3.1 60-65 2012.1	Objective evaluation of the alleviating effects of Goshajinkigan on peripheral neuropathy induced by paclitaxel/carboplatin therapy: A multicenter collaborative study.	Kaku H, 他	がんセンター
J Biol Chem. 287.47 39898-910 2012.10	Regulation of autophagy and its associated cell death by sphingolipid rheostat: reciprocal role of ceramide and sphingosine-1-phosphate in the mTOR pathway.	Taniguchi M, 他	がんセンター
Int J Clin Oncol. 2012.10	Clinical impact of systematic pelvic and para-aortic lymphadenectomy for pT1 and pT2 ovarian cancer: a retrospective survey by the Sankai Gynecology Study Group.	Oshita T, 他	がんセンター
Hum Cell. 25.4 111-5 2012.10	Establishment and characterization of a novel ovarian serous adenocarcinoma cell line, TU-OS-4, that overexpresses EGFR and HER2.	Itamochi H, 他	がんセンター
Hum Cell. 2013.2	Establishment and characterization of a novel ovarian clear cell adenocarcinoma cell line, TU-OC-1, with a mutation in the PIK3CA gene.	Itamochi H, 他	がんセンター
Int J Oncol 41.5 1610-8 2012.11	Therapeutic antitumor efficacy of anti-epidermal growth factor receptor antibody, cetuximab, against malignant pleural mesothelioma.	Kurai J, 他	がんセンター
Cancer Sci. 103.8 1405-13 2012.8	Diagnostic and prognostic impact of serum-soluble UL16-binding protein 2 in lung cancer patients.	Yamaguchi K, 他	がんセンター
Cancer Chemother Pharmacol 69: 599-603, 2012	Evaluation of a formula for individual dosage of nedaplatin based on renal function	Sato S	女性診療科
Cancer Chemother Pharmacol 70: 33-38, 2012	Area under the curve calculation of nedaplatin dose used in combination chemotherapy with irinotecan in a phase I study of gynecologic malignancies	Shimada M	女性診療科
Int J Gynecol Cancer 22: 922-929, 2012	Activation of the mitogen-activated protein kinase kinase/extracellular signal-regulated kinase pathway overcomes cisplatin resistance in ovarian carcinoma cells	Nonaka M	女性診療科
Int J Clin Oncol 17: 430-440, 2012	Clinical trials and future potential of targeted therapy for ovarian cancer	Itamochi H	女性診療科
Human Cell 25: 111-115, 2012	Establishment and characterization of a novel ovarian serous adenocarcinoma cell line, TU-OS-4, that overexpresses EGFR and HER2	Itamochi H	女性診療科
Gynecol Obstet Invest 75: 9-15, 2013	Gonadotropin-releasing hormone analogues reduce the proliferation of endometrial stromal cells but not endometriotic cells	Taniguchi F	女性診療科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 北野 博也
管理担当者氏名	総務課長、源 憲治、医療サービス課長 田村 和彦

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		総務課 医療情報部 薬剤部 各診療科	外来カルテ、入院カルテは電子カルテにて中央管理 紙媒体によるものはスキャンにて電子保存 電子化されているものは電子カルテ管理 エックス線写真は電子カルテにて中央管理（一部フィルムにて各診療科保管） 病院日誌は、紙ベースにて日付順に保管
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医療サービス課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	学務・研究課	
	高度の医療の研修の実績	総務課 医療サービス課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療サービス課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医療サービス課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十一の第一項各号及び第九条の	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療サービス課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	

二十三第一項	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	総務課 医療サービス課
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療サービス課

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	医療サービス課
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第一項各号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
	及び第九号	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	総務課
	及び第九号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
	第二十三号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
	第一項第一号に掲げる体制の確保の	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部 MEセンター
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター	

	状況 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター 医療安全管理部	
--	---	-------------------	--

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 北野 博也
閲覧担当者氏名	総務課長 源 憲治、医療サービス課長 田村 和彦
閲覧の求めに応じる場所	相談室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	91.5 %	算定期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		12,035人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,962人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,276人
	D: 初診の患者の数		16,458人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>(1) 安全管理に関する基本的考え方 (2) 安全管理のための組織に関する基本的事項 (3) 医療安全管理のための医療従事者に対する研修に関する基本方針 (4) 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 (5) 医療事故発生時の対応に関する基本方針 (6) 本院における医療従事者と患者様との間の情報の共有に関する基本方針 (7) 患者様からの相談への対応に関する基本方針 (8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>・ 医療に係る安全管理体制の確保及び推進を図り、医療事故及び医療行為に基づく医事紛争に対する防止策等について審議する。</p> <p>(審議事項)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療に係る安全管理のための指針の策定・整備に関すること</li><li>・ 医療に係る安全管理のための教育・研修の企画・立案に関すること</li><li>・ 医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策に関すること</li><li>・ 医療事故及び医事紛争を防止するために必要な啓発及び対策に関すること</li><li>・ 医療事故等発生時の対応、事実確認並びに医療安全の確保及び医療事故の再発防止に関すること</li><li>・ その他医療に係る安全管理体制の確保及び推進に関すること。</li></ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 7 7 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 職員全体研修会 (3回)<ul style="list-style-type: none"><li>第 1 回「オートプシーイメージング (A i) について」</li><li>第 2 回「転倒転落予防について」</li><li>第 3 回「インフォームド・コンセント～その要件 (説明要件) と説明文書～」</li></ul></li><li>・ 医療安全取り組み報告研修会 (9回)</li><li>・ DVD 研修会 (4回)</li><li>・ 新採用・中途採用者研修 (6回) リスクマネジメント</li><li>・ 病院情報管理システム操作研修 (28回)</li><li>・ 人工呼吸器ディスプレイ回路 (2回)</li><li>・ 輸液ポンプ・シリンジポンプ (3回)</li><li>・ バックバルブマスク研修 (1回)</li><li>・ インスリン療法研修会 (4回)</li><li>・ J-VAC 研修会 (3回)</li><li>・ 効果的な酸素療法 (2回)</li><li>・ 経皮的気管切開術 (1回)</li><li>・ 経腸栄養ポンプ研修会 (2回)</li><li>・ 人工呼吸器研修会 (1回)</li></ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ BLS研修会（2回）</li> <li>・ 生体情報モニター（4回）</li> <li>・ 人工呼吸器非侵襲的陽圧換気療法（2回）</li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li> </ul> <p>（報告の分析）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理者が、インシデント報告書を基に①内容，②原因と要因，③改善策，④患者への影響度レベル，⑤患者及び家族への対応と反応等について現場で確認を行っている。</li> <li>2. 1を基に問題点を抽出し，現場や院内全体での改善策を講じている。</li> </ol> <p>（検討方法）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理者を中心に，院内リスクマネジメント専門委員会委員が，インシデント報告についてカンファレンスを実施し，再発防止対策を検討する。</li> <li>2. GRMは毎月の事例を分析し報告書を作成，リスクマネジメント専門委員会・医療事故防止等対策委員会・病院運営会議・統括医長会議・リスクマネジメント担当者連絡会・看護師長会議で報告し検討している。</li> <li>3. 事例によっては，クオリティ審査専門委員会・医療事故調査委員会で審査を行う。</li> </ol>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有（1名）・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（1名）・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任（1）名 兼任（7）名</li> <li>・ 活動の主な内容：</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療事故防止等対策委員会の運営並びに記録等の作成及び保存，その他医療事故防止等対策委員会に関すること。</li> <li>・ 医療事故に関する診療録，看護記録等への記載が正確かつ十分なされていることの確認を行うとともに必要な指導を行うこと。</li> <li>・ 患者や家族への説明など事故発生時の対応について確認を行うとともに必要な指導を行うこと。</li> <li>・ 医療事故の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに必要な指導を行うこと。</li> <li>・ 医療安全に係る連絡調整に関すること。</li> <li>・ その他医療安全対策の推進に関すること。</li> </ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無

(様式第 13-2)

### 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 院内感染対策に関する基本的考え方</li><li>2. 感染管理組織に関する基本的事項</li><li>3. 院内感染対策のための職員研修に関する基本方針</li><li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li><li>5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針</li><li>6. 患者等に対する「病院感染対策のためのマニュアル」の閲覧に関する基本方針</li><li>7. 院内感染対策推進のために必要な基本方針</li></ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>以下の事項について審議する</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 感染予防の対策に関すること</li><li>2. 感染予防対策実施の監視及び指導に関すること</li><li>3. 感染予防に係る情報の収集に関すること</li><li>4. 感染の発生原因及び感染経路の調査に関すること</li><li>5. その他感染予防に関すること</li></ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 5 7 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 結核対策～患者対応と職員の健康管理～</li><li>・ クロストリジウム・ディフィシル～診断、治療から感染制御～</li><li>・ 抗菌薬耐性菌感染症のアウトブレイクを抑止するために</li><li>・ アウトブレイク対応 (MDRP) DVD 研修</li><li>・ 周術期感染対策の実際</li><li>・ 看護部感染対策リンクナース会活動報告 手指衛生、個人防護具、血流感染対策、尿路感染対策</li><li>・ アウトブレイク対応研修会～薬剤耐性アシネトバクター～、～MRSA～ (2 回)</li><li>・ 新採用者研修 (3 4 回) 感染管理組織、標準予防策、手指衛生、個人防護具、針刺し・血液曝露対策と曝露後対応など</li><li>・ 尿路感染対策病棟出前研修 (1 5 回)</li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容:

- ・ 感染症診療カンファレンスによる抗菌薬耐性菌検出患者・血液培養陽性患者・MRSA感染症治療薬投与患者などの診断・治療・感染対策の検討
- ・ 病棟ラウンドによる感染対策実施状況確認と現場指導
- ・ サーベイランスによる感染症情報の把握とアウトブレイクへの対応

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 7 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容 :</li><li>・ 職員全体研修会 ( 1 回 ) インシデントから考える睡眠薬の適正使用と転倒転落対策</li><li>・ 医療安全への取り組み報告研修会 ( 3 回 ) インシデント事例を基にしたハイリスク薬リストについて 血管外漏出について 輸液セットに注意が必要な薬剤について</li><li>・ インスリン療法研修会 ( 4 回 )</li><li>・ 静脈注射院内認定看護師教育研修 ( 3 回 )</li><li>・ 糖尿病研修会 ( 1 回 )</li><li>・ 薬剤師出前研修 ( 8 回 ) 退院後の服薬アドヒアランス, 抗凝固薬, 造影剤, 化学療法説明会, 他</li><li>・ 病院情報管理システム操作研修 ( 薬剤関連システムを含む ) ( 2 7 回 )</li></ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 手順書の作成 ( 有・無 )</li><li>・ 業務の主な内容 :</li><li>・ 医薬品の採用・購入に関する事項</li><li>・ 医薬品の管理に関する事項 ( 麻薬等の管理方法等 )</li><li>・ 患者の持参薬歴情報等の収集方法, 処方せんの記載方法</li><li>・ 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項</li><li>・ 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱いに関する事項</li><li>・ 他施設 ( 病院等, 薬局等 ) との連携に関する事項</li></ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容 :</li></ul> <p>(情報収集の方法)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療安全管理部および医薬安全に係る委員会と連携し, 院内で発生するインシデント等の情報収集</li><li>・ 病院で発生する副作用・感染症情報の把握</li><li>・ 厚生労働省, 医薬品医療機器総合機構, 製薬企業からの情報提供 ( 口頭, インターネット, 書面等 )</li></ul> <p>(情報の周知方法)</p> <p>緊急性, 重要性, 対象により, 以下の方法等による周知を図る</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 新採用者または全職員を対象に開催する研修会</li><li>・ 書面や医療情報システム掲示板・院内メールを利用した情報提供</li><li>・ 医師等の個人に直接情報提供</li></ul>	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 4 4 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>対象：輸液ポンプ・シリンジポンプ，モニタ，除細動器，アンビュ，人工呼吸器，保育器，透析濾過装置，血液浄化装置，人工心肺装置，PCPS，IABP，高気圧酸素治療装置，その他</p> <p>内容：準備方法，使用方法や主な観察点，注意点，安全情報で特に重要なもの，院内のインシデントレポートを参考にした注意点について実施</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 ( 有・無 )</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>・ 点検の対象機器及び方法を定めセンターでの定期点検，現場定期点検，使用前点検，使用中点検，使用后点検</p> <p>・ 精度，機能，安全機構，ソフトのバージョン等メーカー技術講習に準じて実施。 オーバーホールも含む。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(情報収集の方法)</p> <p>医療機器の添付文書，取扱説明書の安全使用・保守点検に関する文書を整理し管理する。また，院内で発生する医療機器に関する不都合情報はすべてMEセンターに報告してもらい，製造販売会社から適切な対処方法に関して情報提供を求め，医療安全管理部，リスクマネジメント専門委員会と協議協力して，院内へ周知する。また，これら不都合情報のうち適正かつ安全な医療遂行に支障を来すような内容については病院長に報告し，厚生労働省への報告を検討する。</p> <p>(情報の周知方法)</p> <p>医療機器の不都合情報・安全情報等は，当該医療機器に直接携わる関係者には口頭，文書で通知し，院内には「MEセンター瓦版」，「リスクマネジメント便り」，あるいは医療情報システムを利用して情報提供を行う。さらに，研修会実施時に情報提供を行い周知を図っている。</p>	